

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

これまでも何度もこのコラムで書いてきたが、英國では既にこの時期から、来年の英ダービーの馬券を買うことが出来る。「アンティポスト・ベット」と称する長期前売りを発売するブックメーカーが、2022年6月4日にエプソムで行われる第243回英ダービーへ向けたオッズを、既に提示しているのだ。

今回のコラムは、6月13日現在のオッズで上位人気に推されている2頭をご紹介したい。

大手のウイリアムヒルが17倍のオッズを掲げて1番人気に支持するのが、ポイントロンズデール(牡2歳)だ。父は、14年にG1英ダービー(芝12F6Y)、G1愛ダービー(芝12F)、G1インターナショナルS(芝10F56Y)を制しているオーストラリアである。20年のG1セントレジャー(芝14F115Y)勝ち馬ガリレオクローム、同年のG1BCマイル(芝8F)勝ち馬オーダーオヴォーストゥラリア、21年5月のG1ガネイ賞(芝2100m)勝ち馬マレオーストラリスらを送り出している父の、4世代目の産駒となる。

母は英國でG3プリンセスマーガレットS(芝6F)3着、米国でG3アパラチアンS(芝8F)2着の実績を残したスヴィープステイクで、ポイントロンズデールはその9番仔となる。母の6番仔で、ボイントロンズデールの3歳年上の全兄にあた

たが、英國では既にこの時期から、来年の英ダービーの馬券を買うことが出来る。「アンティポスト・ベット」と称する長期前売りを発売するブックメーカーが、2022年6月4日にエプソムで行われる第243回英ダービーへ向けたオッズを、既に提示しているのだ。

今年秋のタタソールズ10月1歳市場にて57万5千ギニー(当時のレートで約8517万円)で購買された同馬は、エイダン・オブライエン厩舎に入厩。6月2日にカラで行われたメイドン(芝7F)でデビューを迎えた。

発馬はさほど速くなかったものの、鞍上のS・ヘファーナンに促されてハナに立ったポイントロンズデールは、残り500mで鞍上が仕掛けると、素早く反応して脚を伸ばし、後続に5.1/2馬身差をつけて優勝。ウイリアムヒルはダービーだけでなく、G1二千ギニー(芝8F)へ向けた前売りでも、同馬に26倍のオッズを掲げて1番人気に支持している。

ご紹介するもう1頭は、ジョン&タディ・ゴスデン厩舎のリーチフォーザムーン(牡2歳)だ。同馬は、5月28日にヤーマスで行われたメイドン(芝7F)でデビュー。4番人気という評価だったが、勝ち馬から1.1/2馬身差の2着に健闘している。6月13日現在、同馬の出走歴はそれだけだから、まだ未勝利馬の分際なのだが、この馬をウイリアムヒルはオッズ67倍の3番人気としている。

豪州ランドウイックのG1ウインクスプリ

ー(芝1400m)2着馬インヴィクトัสプリンスは、同馬の6歳年上の半兄。母ゴールデンストリームの8歳年上の全姉に、G1英オーフィッシュ(芝12F6Y)2着馬フライオヴァーファンシーがいる。リーチフォーザムーンの父はシーザスターーズで、母の父はサドラーーズウェルズだから、背景にあるのは、距離が伸びて真価を發揮する血脉である。

そして、リーチフォーザムーンの生産者で、馬主でもあるのは、エリザベス女王なのだ。70年に及ぶ馬主歴を誇る女王は、1957年にカロッツアでオーフィッシュを、74年にハイクレアで10000ギニーを、58年にポールモールで20000ギニーを、77年にダンファームリンでオーフィッシュとセントレジャーを制している。すなわち、3歳クラシックのうちダービー以外の4競走を女王は制しておられる。

だが、リングフィールドのダービートライルSを勝つて1953年のダービーに臨んだオリオールは、勝ち馬ビンザから4馬身差の2着。ヨークのダービーSを勝つて2011年のダービーに臨んだカールトンハウスは、勝ち馬ブルモワから1馬身差の3着と、ダービーには縁がないのだ。リーチフォーザムーンが勝てば、エリザベス女王にとって悲願のダービー制覇が達成されるわけで、競馬ファンとしては否応なく、肩入れしたくなるのである。